

H29年度 身体障害研修ワーキング(育て!サブ管!!)振り返り・評価シート

H30年2月7日作成

1 今年度の活動について**【今年度の方針】**

平成30年度研修会の開催に向けて、研修会の方向性及び内容案について検討を行う。

【今年度の取り組み内容】

開催回数	3回	開催月	11月・12月・2月
------	----	-----	------------

○具体的活動内容

◆平成30年度実施する、「地域移行に関する研修」の内容・方法・開催時期等についての、意見出しを実施。

【意見】

・施設からの地域移行の必要性だけを主とした内容としても効果的とは言えない。支援の本質の中に、施設以外での生活のニーズもあるといった考え方があり、入所している本人が自分の生活を考えるきっかけとして施設以外の生活も支援者から情報提供していくことが望まれるといった要素が必要ではないか。

・サービス管理責任者養成研修を受講した職員は研修内容に良い意味で感化されることから、サービス管理責任者養成研修に準じた形の研修内容にしてはどうか。

⇒上記の観点から、「地域移行について理解を深めたサービス管理責任者に準ずる職員(通称:サブ管)の育成」を行っていく必要がある。

・制度等の理解も必要であるが、制度の説明だけを行っても理解を得にくいいため、事例を用いた形での社会資源や制度についての説明としてはどうか。

・サービス提供、福祉職員としての基本姿勢。

・サービス等利用計画と個別支援計画の関係性について。

・座学だけではなくグループワークを盛り込むべき。

…等の意見あり。

○取り組みの結果及び成果

※成果はモニタリングを実施した場合のみ

来年度開催予定の研修の目的、必要な要素、内容等、土台となる部分の検討を行った。

今年度ワーキングで検討を行った研修内容を軸として、来年度は、「地域移行について理解を深めたサービス管理責任者に準ずる職員(通称:サブ管)の育成」を目的に研修の企画・実施を目指す。

2 今年度の振り返り及び評価について

【今年度、協議会活動を通じての振り返り(メンバーの感想・意見)】

メンバーが協議会での活動を通じて感じたことや気づき、今年度部会・ワーキングの取り組みに関すること、長岡市協議会の運営や体制に関する課題・意見等

・他分野(知的や精神グループのワーキング等)の取り組みについても、情報共有 が必要だと思った。取り組みを知ることで、分野が違って取り入れられることがあると思う。

・協議会全体で何を行っているか等の把握の必要性を感じた。

・研修を検討するワーキングであるが、より効果的なものにするため、もう少しワーキング発足までの流れや背景を共有できるとよかった。

・研修の内容が、「入所がよくない」のではなく、入所も在宅も選択できるということが重要。

・課題出しのところから、管理者と現場の職員の双方で出来るとよかった。

・研修実施に向けて必要な内容を検討する助走の場としては良かった。地域移行ではなく、「入所している人の思い」「相手の思い」を聞く、受け取ることが重要。

・「アパートは住まい」「グループホームは世話人がいる住まい」「入所施設は24時間の支援がついている住まい」、入所施設も地域の資源のひとつ。そのため「地域移行」という言い方は変えた方がよいのではないか。大切なのは「どこで、だれと暮らしたいか？」であり、いろいろな選択肢がある中で、当事者の方々が洗濯できることが大切。

・ワーキングの中でも、メンバーの中から良い話が出てきている。そのため、各施設長が研修の中で1人1コマ担当してはどうか。

・地域移行部会は、いつも物件探しやパンフレット作製といった印象(申し訳ありません)しかなかった。

・「地域移行」というワードを入所施設にポイントを絞ったこと、そもそも「地域移行って何?」と考える機会が持てたこと、「地域移行」を根底に持ちながらも支援する側のスキルアップに繋げようとするサブ管の発想等々の考え方・議論ができたことは勉強になった。

・ワーキンググループの皆さんの柔軟な発想や、信念を感じることができた。

・今年度は1つの土台を作ったため、来年は土台を耕し種を蒔く必要がある。サブ管研修の実現という芽が出て、「地域移行」も含めた様々な視点を持ち、利用者の本当の幸せと一緒に考えられるサービス管理責任者の育成という花を咲かせられるように期待したい。

【協議会の機能について】

今年度の活動の中で、どのような協議会の機能があったかを確認する。※協議会の機能詳細については別紙を参考。

	機能の有無	確認した機能の内容 (どのような部分が機能であったか、なかった場合はなぜなかったか等)
情報機能	有	・各施設の現状の共有ができた。 ・このワーキングは「だれとどこで暮らしたいか」を支援者にどう伝えていくかの検討を行っていることから、ワーキング自体が情報機能。 ・協議会に関わっている人以外に取り組みをどう知ってもらうかが課題。 ・他のワーキングが何をやっているかの共有も課題。 ・管理者レベルでの意見を確認できたこと。 ・他施設の取組みを知ったことから、日々の支援に反映できる。 ・施設間、法人間で集まって話をする場があると良い。情報や問題を共有できる場があると良い。
調整機能	有	・ワーキングでの情報をもとに、自施設でも検討をすること ・研修内容の調整を実施に向けて行った
開発機能	有	・研修機会の開発 ・サブ管カリキュラムの内容を活用
教育機能	有	・メンバーのいろいろな話や意見が聞けてワーキング自体が研修のようだったこと ・メンバーのいろいろな意見を聞くことでの気づき(知識や視野が広がった) ・管理者レベルの話が聞けたこと ・日々の業務の振り返りの機会になったこと ・施設の状況、制度のことを知ることができたこと
権利擁護機能	有	・ご本人のニーズ「だれとどこで暮らしたいか」を中心に検討を行ったこと ・意思決定支援のプロセス ・ご本人の生活の選択の幅を増やすためにどうするかを検討
評価機能	有	・相談支援事業所だけでなくそれ以外の事業所の方も集まる機会が必要(サブ管、施設長等)。各分野との共有の必要性。 ・他の状況を確認し自分のところを見直す、活かせる。全体会のあり方について、シンポジウムや報告会などを兼ねて対象者を限らず人を集めて行うことも方法ではないか。

3 来年度の取り組みについて

来年度の継続	<input checked="" type="checkbox"/> 継続	終了
継続・終了の理由	来年度、研修企画し実施するため。	

※部会を一旦終了とする場合については、運営会議にて協議の判断材料とできるようその理由を明確に記載すること。

今年度の取り組みに対する モニタリングの実施	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	モニタリング実施時期	年	月
---------------------------	---	------------	---	---

※ワーキングのみ記載

【振り返り・評価内容を受けて、来年度改善を行うこと】 ※来年度継続の場合

会議内容や方法に取り入れることなど、具体的に記載する。

- ・今までの取り組みを引き継いで、ワーキングは継続させていただく。
- ・実施時期は具体的になっていないが、他の研修の状況を確認しながら、秋から冬にかけての時期くらいを目途。
- ・メンバー変更があった場合、これまでの取組みを丁寧に引き継ぎを行い、経過が分からない状態で検討が進んでいくことの無いようにする。
- ・他のワーキングや協議会の取組みについて、必要に応じて可能な限り説明していく必要がある。
- ・入所施設も地域の資源のひとつであるため、「地域移行」という言い方はではなく、「どこで、だれと暮らしたいか」という言い方に変え、その部分についてもきちんと伝えるべき。

【来年度の方向性・具体的取り組み内容や引継ぎ事項等】 ※来年度継続の場合

【来年度の具体的取り組み内容】

(1)今年度ワーキングでの意見(研修に必要な要素)をふまえて、8月頃をめどに研修の構成・内容を決定する。
※開催日時(時間数)、場所、講師、回数、カリキュラム(獲得目標)、対象者(人数・経験年数)、主催者(市が主催となった場合は検討の際に福祉課職員に参加していただく)等

(2)10月頃をめどとして研修を実施する。

【来年度の方向性及び引継ぎ事項】

施設から出て生活すること(いわゆる地域移行)が望ましいのではなく、施設も施設以外でも自分がどこで暮らしたいかという自分の生活を選択していけることが重要となるため、今後は「入所施設からの地域移行」という言い方ではなく、『どこで、だれと、くらしたいか』(通称:どこだれ)としてこれまでの「地域移行」を言い替える。